

## 学校法人明治学院 中期計画（2020～2024 年度）総括

本学院は、中期計画（2020～2024 年度）について、毎年の事業報告書において進捗状況を報告してきた。計画期間終了にあたり、その総括を行う。

※計画毎に達成度を示す。達成度は以下の基準により測定する。

目標以上の成果：目標以上の成果があった。（計画継続中を含む）

概ね目標通りの成果：主要な計画を達成し概ね目標通りの成果があった。（計画継続中を含む）

目標未達：主要な計画が未達となり目標を下回る成果に留まった。（計画継続中を含む）

達成度未計測（計画継続中）：計画が継続しており、目標達成度を計るための成果が不足している。

### 《法人》

#### 1. 明治学院のキリスト教教育の展開 <教学>

##### 【教育ビジョン「中高大共通キリスト教テキスト作成プロジェクトチーム」】

2020～2023 年度は、このプロジェクトで作成し、出版した聖書関連共通テキスト「ヤバいぜ!聖書(バイブル)」を用いた授業を中学・高校・大学で展開した。今後、井深家の墓じまいに伴う写真差し替えを予定している。2024 年度は、このテキストの総合的評価のための調査と、第2ステージの「テキスト改訂プロジェクト」(仮称)立ち上げを検討する予定であったが、もう一つの目標である、キリスト教教育担当者同士の相互理解と交流を継続し、本学院のキリスト教教育に係る中高大連携に関する環境整備を図るための「キリスト教担当教員研修プロジェクト(仮称)」として継続することとした。

《達成度：概ね目標通りの成果》

##### 【教育ビジョン「キリスト教教育教職員研修プロジェクトチーム」】

①年1回の「勤務員キリスト教教育セミナー」を実施し、参加者(終日参加)を前年度比5%増とする目標に対し、2020年(中止)、2021年105名、2022年90名、2023年58名、2024年73名の参加者となった。

②「ふれあい年」対象者へキリスト教関連イベントを開催し、クリスマスカード、カレンダーを配布した。

③年2回の「リトリート」を実施し、参加者を前年度比5%増とする目標であったが、コロナ禍により実施できない年があり、最終的に2024年度の参加者は12名であった。今後は、宗教部において本企画を実施する。

④勤務員セミナー講演集の活用(セミナー分科会等で使用)実施しなかった。

《達成度：目標未達》

#### 2. 教学改革と教育改善の推進<教学>

明治学院大学・明治学院高等学校・明治学院中学・明治学院東村山高等学校の総括を参照

《達成度：各学校参照》

### 3. グローバル教育の充実 <教学>

#### 【教育ビジョン「国際交流（留学）ワーキングチーム」】

2019年度までは高校生（白金・東村山）対象の TOEFL 講座を実施していたが、コロナ禍の影響により 2020年度は中止、2021年度は大学生対象のみ実施し、2022年度 2023年度は高校生対象も実施した。2024年度以降は新設した「明治学院キリスト教主義教育推進委員会」が学院全体のキリスト教主義教育を検討することとなり、教育ビジョンは終了した。

《達成度：目標未達》

### 4. ボランティア活動の充実 <教学>

#### 【教育ビジョン「ボランティア教育プロジェクトチーム」】

パヤオ プロジェクトの準備で 2019年度に教職員の現地視察を行ったが、2020年度はコロナ禍の影響により休止した。2021年度以降、コロナ禍において学院として教育事業を順次再開する中で、本事業についても再開を検討したが、実施には至らなかった。2024年度以降は新設した「明治学院キリスト教主義教育推進委員会」が学院全体のキリスト教主義教育を検討することとなり、教育ビジョンは終了した。

《達成度：目標未達》

### 5. キャリアサポート体制の充実 <教学>

大学、高等学校、中学・東村山高等学校各々のキャリア支援プロジェクトチームが、中高大を通してのキャリア支援を目指し取り組みを進めたが、各学校の学暦が異なる関係で連携が難しく、2023年度をもって各プロジェクトチームとしての活動を終了した。

各学校においては、それぞれで講演会や適性テストなどを実施し、キャリアサポートに関する取り組みを継続実施した。

《達成度：目標未達》

### 6. 学生へのサポート体制および学業支援（奨学金）の強化 <教学>

横浜キャンパスにおける学生の通学問題については、戸塚駅東口バスロータリー内の本学専用レーンからの急行バスの運行開始に加え大学が定期代の一部を補助する学期定期券の制度の導入により利便性の向上を図ったものの、戸塚駅およびキャンパス内での待ち時間については、引き続き課題となっている。また、学生の経済的な負担を軽減させることを目的に、奨学金の給付型奨学金の安定的な運営と第3号基本金の計画的な積み増しを継続した。大学チャレンジ奨学金募金については、募集期間を3年間延長し寄付者の拡大に努めた結果、目標金額には僅かに届かなかったものの、多くの方々からの寄付に繋がった。

《達成度：概ね目標通りの成果》

### 7. 施設および設備の充実 <施設>

各学校における長期施設計画に基づいて年度ごとに最優先の施設・設備の整備を実施した。環境問題の取り組みとしては、大学において照明装置のLED化の促進、エネルギー原単位の削減に注力し、CO2基準

排出量の27%削減を達成した。2024年4月に情報数理学部を設立し、横浜キャンパスに新校舎(2025年9月完成)を建設することとなった。同校舎(横浜11号館)は年間の一次エネルギー消費量収支ゼロを見据えた先進建築物(ZEB=Net Zero Energy Building)としての認証も受けている(ZEB Ready)。

《達成度：概ね目標通りの成果》

## 8. 人事体制の強化・整備 <人事>

専任職員については、2025年度からの段階的定年延長を決定した。大学における業務委託費を含めた総人件費の膨張を抑制するまでは至っていない。また、「同一労働同一賃金」への対応および職種ごとの就労環境の整備には至っていない。明治学院中学校・東村山高等学校は2022年度より変形労働時間制を導入して業務の効率化に取り組んだ。明治学院高等学校においても変形労働時間制の導入にむけた体制の整備が進んだ。

《達成度：目標未達》

## 9. 財務基盤の強化 <財務>

学院財政については各年度の事業活動収入と事業活動支出の均衡を図りつつ、基本金組入前当年度収支差額を増加させることにより財務基盤の強化に努めた。中期計画に織り込んでいた高校の校舎建設資金および大学の新校舎建設資金の支払にも対応したうえで、基本金組入前当年度収支差額の2020年度～2024年度の合計は93億円となり、当初計画の86億円を7億円上回った。中期財政計画の3目標については全てを達成したのは2021年度のみであったが、未達となった年度も目標に近い水準を維持した。教育・研究環境の充実を図るための第2号基本金についても計画に基づき組み入れを継続した。また、予算のPDCAサイクルを回し、支払資金の効果的運用を図った。

《達成度：概ね目標通りの成果》

## 《明治学院大学》

### 1. 明治学院のキリスト教教育の展開 <教学>

建学の精神の浸透のために、運動部に所属する学生向けに黙想形式の「アスリートデイ」を実施。さらにそれを広げ、全学生向けの「リスタートデイ」としてチャペルアワーを実施した。英語で聖書にふれる「English Bible Café」および午後の授業前のリフレッシュを謳った「水曜コーヒー」といった取り組みも実施し、「音楽」、「友達づくり」、「国際交流」、「食」などを通じて、様々な学生がチャペルに足を運ぶ機会を創出した。

《達成度：概ね目標通りの成果》

### 2. 教学改革と教育改善の推進 <教学>

2023 年度に全学生を対象とした《AI・データサイエンス教育プログラム》を開始し、年間 3,000 名を超える履修者数に対応するべく、教育体制の整備を行った。

今後の情報化社会を担える人材を育成するため、2024 年度に理系の新学部・情報数理学部を横浜キャンパスに開設した。大学院・情報数理学研究科（仮称）の設置構想にも着手し、2027 年 4 月の開設に向けて、準備を進めた。

「明治学院共通科目の編成方針の再検討と、学部学科のカリキュラムにおける共通科目の位置づけの明確化」を目的とし、担当副学長を座長とした「教養教育検討ワーキンググループ」を編成した。本ワーキンググループからの答申を基に全学的な議論を開始した。

2023 年度に、授業を遠隔で行うためのルールを取り決め、2024 年度は一定の授業を遠隔にて実施し、2025 年度の遠隔授業の有効活用に向けたルール改正を行った。

2024 年度は、科学研究費助成事業における「研究者が所属する研究機関別新規採択率上位 30 機関」において 1 位となった。研究をサポートするための体制整備として、研究倫理および利益相反の審査体制の整備・拡充を進め、研究費による専門研究員の雇用や、教員が行う業務について、補助または代行させる経費を競争的研究費の直接経費から支出可能とするバイアウトの制度化を行った。

《達成度：目標以上の成果》

### 3. グローバル教育の充実 <教学>

「海外協定校連携科目群」として、日本にいながらハワイ大学マノア校の科目をライブ配信で履修できるプログラムの全学展開を開始した。2024 年度は、4 科目を開講、85 名が履修するなど、高いニーズがあることを確認した。

国際センター公認の留学や国際交流イベントの企画・運営・広報を行う学生団体 Global Associate の活動は、一般学生と交換留学生との交流だけでなく、正規留学生も含めて活動を広げており、2024 年度には 395 名の参加があった。交換留学生や本学バディ、Resident Assistant (RA) も含めて交流機会を求めている層に対しての十分なアプローチを行うことができた。

《達成度：概ね目標通りの成果》

### 4. ボランティア活動の充実 <教学>

ボランティア・サティフィケートの 2024 年度登録生は、第 1 回インテグレーション講座に出席した 60

名中 44 名（73%）が第 2 回インテグレーション講座を受講し、前年度と比較して人数および受講率が増加した。直近 3 カ年の平均受講率は 61.3%だった。

多様なプロジェクトに対応すべく、学年・学科を問わず白金・横浜の両キャンパスで「いつでもボランティアチャレンジ」の申請を受け付けた。また、留学生をはじめとした日本語を母語としない学生に向けた英語版の募集要項を展開した。

「1 Day for Others」では 2024 年度に 16 団体と延べ 28 プログラムを新設した。また、チャレンジコミュニティ大学修了生の取り組みを本学ボランティアセンターの 1 日社会貢献プログラム「1 Day for Others」のプログラムとして提供している。2024 年度は、延べ 14 プログラムに 30 名の本学学生が参加し、交流・連携を維持している。

《達成度：概ね目標通りの成果》

## 5. キャリアサポート体制の充実 <教学>

職活動支援講座の充実、キャリアデザインに資する教育の充実として、キャリアデザインに資する授業科目の学生への認知推進や、公務員セミナー、MG キャリア講座、就活ステップアップ講座等の課外プログラムを実施した。

相談体制の充実においては、経験年数の浅い職員に対して、特定非営利活動法人日本キャリア開発協会による「キャリアカウンセリング技能向上研修」を行い、カウンセリング技術の向上を図った。また、相談員数と相談枠の適正化に努め、学生からの高い満足度を維持した。

発達障がいのある学生に対し、キャリアセンターや就職支援を行っている企業とも連携しながら、就職活動に必要な自己理解やスキルを獲得するための支援を行った。2020 年度からオンライン方式だったが、2024 年度は対面方式で講座を実施した。

様々な団体・企業から協力を得て、寄付講座・パートナーシップ講座を開講し、実社会での現場経験を踏まえた教育の提供を推進した。

《達成度：概ね目標通りの成果》

## 6. 学生へのサポート体制および学業支援（奨学金）の強化 <教学>

2023 年度に修学支援制度とへボン給付奨学金を併給していた制度の見直しを検討し、2025 年度からの運用開始を準備した。2024 年度は現在の受給者に対して、多子世帯への支援拡充にも対応しつつ、新たな運用の概要を丁寧に伝え、十分な告知を行った。

ノートテイク養成テキストの作成や関連する動画の整備、スタッフのノウハウ蓄積、運営方法の工夫等により、学生サポートスタッフ養成における効率化、とノートテイクの技量の向上、さらに提供する支援の質の向上を継続的に図っており、スタッフ数も堅調に推移している。

《達成度：概ね目標通りの成果》

## 7. その他の計画 <教学>

### 【教員が研究しやすい環境づくり】

教員が研究しやすい環境づくりのために、個人研究費と学会等研究出張旅費の合算使用の規程化を

行った。また、学科主任業務の負担軽減のために「学科主任補佐」を試験導入すべく準備を進めた。

《達成度：概ね目標通りの成果》

### 【首都圏以外からの学生（特別入試も含めて）の確保】

首都圏以外からの学生（特別入試も含めて）の確保として、2024 年度に札幌、仙台、静岡、福岡において開催した One Day Campus の来場者数は、前年並みだった静岡会場を除き、前年を大きく超える参加者があり、学外試験会場における 4 エリアの志願者数についても全体で前年を上回った。

《達成度：概ね目標通りの成果》

### 【内部質保証体制の再構築（内部質保証システムの有効性の検証）】

内部質保証体制の再構築という点で、2022 年度に受審した認証評価での指摘事項を踏まえ、新しい内部質保証体制「MG モデル(▼▲Management and Go)」を始動し、自己点検・評価から改善指示発出までの PDCA サイクルを回した。

《達成度：概ね目標通りの成果》

### 【広報力の強化】

広報力の強化として、大学 Web ページの充実を行い、動画コンテンツ「明学の理由。」の継続的な発信と入試情報サイトなどの部分的なデザイン改修を行い、ブランドイメージ強化を図った。また、情報数理学部設置を契機とした発信の強化として、情報数理学部、情報科学融合領域センター、AI・データサイエンス教育プログラムといった理系/文理融合教育研究の広報に積極的に協力しニュースやプレスリリース発信を行った。スポーツ振興を契機とした発信の強化も行い、Road to HAKONE 2028 としてロゴマークを制定し応援グッズの展開や Web ページの改修を行い、明学スポーツ振興の旗印である MG 箱根駅伝プロジェクトの広報強化を行なった。

《達成度：概ね目標通りの成果》

### 【横浜キャンパスプロジェクトの推進】

横浜キャンパスプロジェクトとして、通学バスの学期定期券販売は 2024 年度に 3 年目を迎え、販売枚数は前年度をさらに上回る春学期 4,756 枚、秋学期 4,376 枚にのぼり、その分の補助を行った。授業に合わせた急行便の増便や、バス会社・行政との調整など、通学の利便性向上を図る一方、戸塚駅・キャンパス内それぞれでの待ち時間については、引き続き課題となっている。学生によるピアサポートグループ「キャンパスコンシェルジュ」は発足してから 2024 年度に 10 年目を迎え、質問・相談対応にとどまらず多数の企画を立案・実施し、学内における一定の役割を担っている。

「環境・福祉・国際」を三本柱とする大学祭「戸塚まつり」は 2024 年度の 2 日間合計で 8,367 名と、過去 2 番目の来場者数があった。

《達成度：概ね目標通りの成果》

### 【ハラスメント防止・対策に関する教職員への研修会（講演会）・啓発活動の強化】

ハラスメント防止・対策に関する教職員への研修会（講演会）・啓発活動の強化という点から、2024 年

度は、臨床心理士を講師に招き、これまでの研修とは異なる視点で、第三者としてハラスメントや差別に居合わせたとき、事態の悪化を防ぐためにどのような介入をすればよいかについて、講義に加えて、グループワークやロールプレイを取り入れた研修を行い、教職員向けにオンデマンド配信も行った。

《達成度：概ね目標通りの成果》

### 【校友会と同窓会の統合】

2025年3月11日付で卒業生と大学の絆を明確にすることを目指し、共に卒業生の組織である校友会と同窓会を新たに発足する「学友会」のもとに統合した。

《達成度：概ね目標通りの成果》

### 【チャレンジコミュニティ大学の充実】

2025年度の「チャレンジコミュニティ大学大学院」発足に向けて、チャレンジコミュニティ大学アドバンストプレコースの準備、実施を行った。

《達成度：概ね目標通りの成果》

## 8. 施設および設備の充実 <施設>

横浜キャンパスにおいて、2023年度に着工した新校舎の建設を遅滞なく進めた。また、「MG箱根駅伝プロジェクト」の施策として、戸塚グラウンドの黎明館（クラブハウス）の一部を体育会陸上競技部長距離ブロックの寮へ改修した。

図書館における主体的学びの推進の観点から「気軽に本と接する場所をキャンパスに」をコンセプトに本や資料へのアクセスポイントを図書館外にも増やし、学生の学びを活性化することを目的に、白金・横浜両キャンパスのカフェテリアのそばに「MG BOOK SPOT」を新設した。

教室の更新工事において、オンライン配信が可能な環境を維持しつつ、授業時の投影資料の見やすさを一層重視した環境整備を進めており、機器の選定や新たな技術の導入に着手した。さらに授業前の準備における利便性向上を目的に教室マルチメディア機器操作の鍵を不要とし、マイクを常備する教室の整備を継続して進めている。

防災計画として、数日間の滞在に必要な食数として、2024年度は横浜キャンパスに31,488食、白金キャンパスに40,466食を備蓄した。

学内のバリアフリー対応として、白金校舎の本館およびへボン館の工事やエレベーターの設定変更などを行った。

《達成度：概ね目標通りの成果》

## 9. 人事体制の強化・整備 <人事>

大学事務組織の改革の前提として、これらかの大学事務を担う若手事務職員と学長・大学執行部との意見交換会を4回開催し、課題抽出・施策提言などを受け、課題解決・施策実現のための体制整備を行った。

事務組織の見直しと強化という観点から、内部質保証体制構築のため、自己点検推進室と総合企画室企画課を2024年度から統合した。また、学長室と総合企画室と分かれていた部署を学長室へ統合した。

学友会発足（2025年3月11日付）を機に、校友センターを学友センターに改めた。また、事務機能強化のために管財部に横浜管財課を設置（2025年4月1日付）する事務局職制変更を行った。

**《達成度：概ね目標通りの成果》**

## 《明治学院高等学校》

### 1. 明治学院のキリスト教教育の展開＜教学＞

#### 【礼拝の充実】

日々の礼拝をキリスト者教職員・講師、学院関係者、学院牧師、準宣教師（英語礼拝）が中心となっており、学期に1回を目安にキリスト者ではない教職員によるアッセンブリー（講話）を実施した。また、礼拝暦に基づき、聖書講話・特別礼拝を教会の牧師、学校の教師、社会活動に従事しているキリスト者を招いて実施した。

《達成度：概ね目標通りの成果》

#### 【キリスト教主義の浸透】

校舎改築に際して、礼拝ホールの新設やすべてのHRからチャペルを望むことができるなどキリスト教の「香り」のする新校舎を建築した。

学院オルガニストによるパイプオルガン講座や宿泊研修会、チャペルコンサートなど、生徒・保護者に働きかけるプログラムを実施した。

《達成度：概ね目標通りの成果》

### 2. 教学改革と教育改善の推進＜教学＞

2022年度文部科学省による学習指導要領の改訂に合わせカリキュラムを作成し、観点別評価により、生徒の学習成果を多面的に評価するとともに、探究型授業やグループ学習、プレゼンテーションの機会を多く設定した。

生徒1人1台端末配布とWiFi導入などICT環境の整備を進め、タブレットを積極的に活用した双方向の授業展開を進めた。

また、習熟度別の少人数授業での丁寧な指導に加えて、学期末の講習・補講では多様な講座を開講して興味関心の高い分野の学習を深めたりと、生徒一人ひとりのニーズに応える授業を展開した。

《達成度：概ね目標通りの成果》

### 3. 国際交流活動の推進＜教学＞

#### 【海外研修プログラムの検討】

オーストラリア研修について、コロナ禍で一時中断を余儀なくされたが、現地校での語学研修、ホームステイを2024年度から再開するとともに、ターム留学実施に向けてクイーンズランド州教育省（UQI）との協議を開始した。また、クイーンズランド大学入学前プログラムであるクイーンズランド大学カレッジ（UQC）と提携し、海外進学を志望する生徒への情報提供を行った。

《達成度：概ね目標通りの成果》

#### 【国際交流ラウンジにおける活動】

留学生受入れについては、毎年2名を受入れ、国際交流ラウンジを拠点とした学習や活動を行うとともに、日本語や日本文化に関する特別授業を実施した。また、国際交流ラウンジを活用した取組として、留学経験者による報告会や国際交流に関心のある生徒の有志団体 International Exchange Society を組

織し、留学生との昼食や国際交流に関する定期的な活動を開始した。

《達成度：概ね目標通りの成果》

#### 4. ボランティア活動の充実＜教学＞

大学との連携において、大学ボランティアセンターの主催で高校生が参加可能なプログラムへの参加を推奨したが、高校生が参加できるプログラムがほぼなかったため高大連携実績は不十分であった。

外部諸団体との連携においては、「教育ビジョン」の「タイ・パヤオプロジェクト」に携わったメンバーによる現地工芸品等の販売、JOCs（日本キリスト教海外医療協力会）に対する使用済み切手の送付、横浜寿町の炊き出しへのハイ Y（ハイスクール Y M C A）部生徒の参加等の活動を展開した。しかしながら、パヤオプロジェクト自体が、コロナ禍による中断を経て、「教育ビジョン」が 2023 年度をもって終了することに伴い実施されないことになったため、当初計画した活動は出来なかった。

《達成度：目標未達》

#### 5. キャリアサポート体制の充実＜教学＞

進路指導について、単純に進学や就職の指導とは考えず「いかに生きるか」という視点を持ち、「一人ひとりを大切にする進路指導」により「生徒のさまざまな夢をサポート」することを徹底した。進路施策として、全校の生徒・保護者に向けた『進路の手引き』発行、大学入試のための補習・講習の充実、マレーシアの大学との指定校推薦協定締結を実施した。

大学との連携については、「大学入門講座」、「大学出張講義」、「ゼミ体験」などを協働して開催し、大学で学ぶことへの意欲と準備、教養や実力を培うプログラムを実施した。

《達成度：概ね目標通りの成果》

#### 6. 生徒へのサポート体制および学業支援（奨学金）の強化＜教学＞

##### 【奨学金の充実】

学内奨学金について、2021 年度より制度を見直し、支給対象として授業料に加えて教育維持費および施設費にまで拡大することで保護者負担の軽減を図った。

《達成度：概ね目標通りの成果》

##### 【幅広い支援策の実施】

改正障害者差別解消法に則って、「合理的配慮に関する委員会」を設置して、授業や定期試験などで合理的配慮を必要とする生徒に対する支援を実施したほか、いじめ防止対策推進法に則って「いじめ対策委員会」による組織的な対策と対応に取り組んだ。

《達成度：概ね目標通りの成果》

#### 7. その他の計画＜教学＞

募集対策については、Web ページによる広報をきめ細やかに展開して、受験生への情報提供を充実させたほか、2019 年度から導入した Web 出願システムを活用して、合格発表の Web 化や学校見学会の Web 予約受付を開始した。また、学校説明会を生徒が受験生・保護者を案内する校舎見学会方式で実施し、出来

るだけ通常の学校生活を知っていただけるように取り組んだ。

入学者の基礎学力を向上させるために、推薦合格者対象の基礎力確認テスト（英数国）を実施して、苦手科目については入学前に補習を行った。

《達成度：概ね目標通りの成果》

## 8. 施設および設備の充実<施設>

新校舎建築について、2020年度から仮設校舎での授業を行い、旧校舎解体完了後の2020年9月より新校舎建築を開始し、予定通り2022年7月に新校舎が完成した。新校舎については、白金キャンパスの歴史的建造物と調和したレンガ積み外観や礼拝ホールを設置することによりキリスト教学校としての存在感を高め、ラーニングセンターや特別教室を増設したほか、ICT環境の高度化も図り、授業やカリキュラムを充実させることが出来た。また、新校舎完成後も引き続き使用する本館・体育館について必要な改修や補修を行った。

《達成度：概ね目標通りの成果》

## 9. 人事組織の充実<人事>

### 【校務運営体制の活性化】

校務運営について、管理職と部会主任で構成される校務運営委員会は、2022年度より半数以上を女性が占めており、多様な視点で校務運営を行うことができるようになった。

《達成度：概ね目標通りの成果》

### 【就労環境および制度の整備】

改正労働施策総合推進法（パワハラ防止法）への対応として、ハラスメント防止規程を制定したほか、教員の長時間労働を防ぎ、労働基準法に定められた年次有給休暇を取得できるようにするため、年単位の変形労働時間制の導入に向けた協議を進め、労使協約書を交わしたうえで2025年4月から実施することとした。

《達成度：概ね目標通りの成果》

## 10. 財政基盤の強化<財務>

### 【募金の推進】

新校舎建築資金の充実を図るため「新校舎建築募金」（2022年7月まで）を募集し、卒業生をはじめとして多数の方々からご賛同とご協力をいただいた。

《達成度：概ね目標通りの成果》

### 【収入増加の施策】

新校舎建築期間中は据え置いた学納金（授業料・施設費・入学金等）について、2023年度から値上げ（年次進行）を実施し、更なるその後の物価高騰と既設本館・体育館の修繕に対応するため、2026年度から更なる学納金値上げを実施することを決定した。

《達成度：概ね目標通りの成果》

## 《明治学院中学校・東村山高等学校》

### 1. 明治学院のキリスト教教育の展開<教学>

#### 【礼拝の充実】

新型コロナウイルス感染症拡大局面においては、ICTの活用（オンライン化）や放送礼拝の導入等により、可能な限り日々のおよび特別礼拝を守った。2023年度以降は（新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことに伴い）従来方式に戻しながら、日々の礼拝および特別礼拝等を計画通りに実施した。

《達成度：概ね目標通りの成果》

#### 【宿泊研修・修養会の実施】

新型コロナウイルス感染症の影響により、見送り（中止）や延期・規模縮小を余儀なくされる局面もあったが、同時期においても感染予防策を取りながら、極力実施可能なものについては実施した。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行された2023年度以降においては、予定通りに諸行事が実施できた。また、実施内容については、中1の宿泊研修の宿泊数を見直す等の対応を実施した。

《達成度：概ね目標通りの成果》

### 2. 教学改革と教育改善の推進<教学>

#### 【授業および学習プログラムの充実】

- ① 予定していた「授業時間の50分化」については、予定通り2021年度に移行し、授業時間の確保を実現すると同時に、更なる授業内容の充実を図った。
- ② 中学は2021年、高校は2022年に新学習指導要領を踏まえた新カリキュラムに移行予定となっていたが、本校内に設置した「カリキュラム検討委員会」を中心に検討を重ね、中高共に円滑な移行を実現した。新たに導入された「観点別評価」においても、教員向け研修を複数回実施の上、内容の周知徹底を図り、問題なく移行した。
- ③ 2023年度から新たに「カリキュラム・マネジメント」の手法を採用し、教科横断的な目線で教育活動を展開するように促した。

《達成度：概ね目標通りの成果》

#### 【ICT教育の充実】

- ① 2020年度より中高共に年次進行でタブレット端末（貸与型）を導入し、調べ学習等での積極活用を促した他、学内のICTインフラ（無線LANの設置、アクセスポイントの増強、電子黒板の導入等）も同時並行的に整備を進行させた。
- ② 生徒利用の情報端末の故障・修理障害対応、更には教員への情報機器操作支援を目的としたICT支援員を2023年度より導入し、更なるICT機器の利活用を促進した。
- ③ 2024年度からは高校生の端末をタブレット型PC（買取型）に切り替えて、更なる端末の有効活用を図った。

《達成度：概ね目標通りの成果》

### 3. グローバル教育の充実<教学>

#### 【国際プログラムの実施】

- ①国際交流プログラムで予定していたホームステイプログラムについては、コロナ禍の影響（海外渡航制限）もあり、2023年度迄休止とした。2023年度以降は予定通りに実施した。
- ②ウィンターイングリッシュプログラムは2022年度より再開したが、受入校のNorthwestern Collegeの都合により実施不可となり、2023年度はカナダのバンクーバーにあるLCI Language Schoolにて実施。更に2024年度は応募者数少数により中止となった。

《達成度：概ね目標通りの成果》

#### 【留学の勧奨と留学生の受け入れ推進】

- ①本校生徒の留学については、生徒や保護者から相談があれば外部団体を紹介し、留学を勧めている。
- ②留学生の受け入れは、コロナ禍当時は海外渡航制限もあり受け入れはできなかった。コロナ禍明け後は少数ではあるが留学団体からの依頼もあり、対応している。
- ③準宣教師の受け入れについては校内で検討を重ねたものの、受け入れには至らなかった。

《達成度：概ね目標通りの成果》

#### 【高大連携の推進】

明治学院教育ビジョン国際交流（留学）ワーキングチームのアクションプランに基づき、夏休み期間中に高大接続の一環としてTOEFL講座を開講していたが、2020年度はコロナ禍の影響等で実施を見送り、2021年度はオンライン講義となった関係で生徒の参加が無かった。2022年度以降は一定数の参加者が確認されたものの、2024年度（以降）は明治学院教育ビジョンの終了に伴い、同プログラムを中止することとなった。

《達成度：目標未達》

#### 【その他】

2024年度に、中学3年生以上を対象とした夏休み期間中の海外スタディツアーを2プログラム（オーストラリア・スタディツアー、イギリス・スタディツアー）新設した。更に、3学期（冬期）に高校1年生・2年生を対象としたニュージーランドターム留学プログラムを新設した。

《達成度：概ね目標通りの成果》

### 4. ボランティア活動の充実<教学>

#### 【自主的なボランティア活動の推進】

- ①高校ではフィリピンとの間でCFJのプログラム参加を通じて、生徒からの支援金により対象者を支援した。
- ②夏期のコイン募金については、その金額についてJOCs（日本キリスト教海外医療協力会）への送金やバンコクYMCAを通じて「パヤオセンター」のために資金援助した。
- ③クラブ活動の一環として、中学ハンドベルクワイアが、教会や社会福祉施設等で演奏奉仕を実施した。

また、将棋部による高齢者福祉施設内の高齢者との将棋対局ボランティアもコロナ禍明け後に再開した。

- ④コロナ禍明け後の2023年には、(コロナ禍の影響で)中断していた、東日本大震災被災者救助のための有志高校生による被災地でのボランティア活動を再開した。
- ⑤目標としていた中学生の体験を含むボランティア学習については内容・実施方法を含めて課題を残すこととなった。

《達成度：概ね目標通りの成果》

#### 【学院との連携によるボランティア活動への対応】

本校で実施した夏期のコイン募金の一部について「パヤオセンター」のために資金援助した。

タイのパヤオセンターに訪問することを当初目標としていたものの、コロナ禍の影響で渡航不可となり、その後、明治学院教育ビジョンの終了に伴い、同活動を停止した。

《達成度：目標未達》

### 5. キャリアサポート体制の充実<教学>

#### 【キャリア教育の推進】

生徒が自分の「使命(ベールーフ)」について考え発見できる機会を提供するため、多様な講師を招き、中学および高校の対象学年でキャリア講演会を実施した。

《達成度：概ね目標通りの成果》

#### 【進路指導の充実】

- ①現行の「学習プログラム」に基づく、進路指導の定例会議を毎週行い、各学年の指導状況、取り組みについて検討した。
- ②高校生向けの「進路の手引き」を改訂、配付した。大学受験指導のため、外部専門業者の分析データを活用して、高2・高3教員向けの出願指導研修および数回に亘って模試結果の分析報告を行った。
- ③2024年度の高3より、コース制の一部を変更し、高3から「推薦進学コース」、「文系受験コース」、「理系受験コース」に分かれることとした。
- ④長期休暇期間中(夏休み、冬休み、春休み)には必要に応じて講習を実施した。

《達成度：概ね目標通りの成果》

#### 【中高大の連携推進】

- ①接続教育の充実においては、推薦進学予定の生徒に対する「明治学院大学学部学科説明会(6月)」および「J.C.バラ・プログラム(2月)」を設定して対象者の参加を促した。
- ②推薦進学コースの高3生を対象とした「アカデミック・リテラシー」の授業においては、小論文・面接指導を実施した。また、このアカデミック・リテラシーの授業内で実施される明治学院大学教員による特別講義が「教養原論」として明治学院大学入学後に単位認定される。
- ③明治学院大学初の理系学部として2024年4月に新設された情報数理学部に進学を希望する本校生徒へ

の対応として、2023年度における高3のカリキュラムを変更（学則も変更）した。

《達成度：概ね目標通りの成果》

## 6. 生徒へのサポート体制および学業支援（奨学金）の強化＜教学＞

### 【奨学金の充実】

- ①中学校・東村山高等学校同窓会との話し合いを進め、中学校で年間を通して学校生活全般において優秀な生徒に対して奨学金を給付する奨学金制度を制定した。2021年度より運用を開始した。
- ②明治学院「ぶどうの木奨学基金」の新たな対象者（中学生）が加わったことに対して、本校近隣教会等へ「ぶどうの木奨学金」の案内を送付し、制度の周知に努めた。
- ③本校独自の授業料軽減制度について、従来はその対象が「授業料」のみであったが、2020年度に「教育維持費」および「施設費」を含んだ学納金に拡充の上、2021年度より運用を開始した。

《達成度：概ね目標通りの成果》

### 【幅広い支援の実施】

- ①いじめ防止対策推進法に基づく対応として、定例化した「いじめ対策委員会」を運営し、いじめの早期発見に努めた。加えて、匿名いじめ通報アプリ「スクースサイン」や学校ポストなど諸方策を継続して実施した。
- ②合理的配慮の義務化に伴い、定例化した「特別支援委員会」を運営し、特別な配慮や支援が必要な生徒について、委員と学年教員との間で情報交換や具体的な支援内容を検討し実行した。また、特別支援員と連携しつつ別室指導などの具体的な対応を実施した。
- ③スクールソーシャルワーカーの導入については、導入への課題も多く、継続検討課題となった。
- ④放課後自習室の設置については、検討を進めているところではあるが、適切な場所の確保に課題が残っており、継続検討課題となった。

《達成度：概ね目標通りの成果》

## 7. その他の計画＜教学＞

### 【学校評価】

- ①本校内で実施する研修会では、各部署・各教科による、(1)年度初の方針、(2)年度中間時点における総括、(3)年度末における年間総括を公表し、学校運営に関する自己評価を実施している。
- ②在校生の卒業時における学校アンケートを毎年実施し、本校の今後の改善点の把握に努めた。
- ③PTA評議会を定期的に行い、学年報告、学校報告、行事報告等を実施し、生徒の取り組み状況を共有すると共に、本校側の改善点等について確認した。
- ④外部コンサルティング会社による、教育活動に関する第三者評価を実施し、改善点等を確認した。

《達成度：概ね目標通りの成果》

### 【募集人員の検討】

少子化の影響は本校近隣の私立中学校・高等学校の動向からその一部（閉校、募集停止等）を垣間見ることはできた。しかし一方で、現状の本校受験者数に大きな変化が確認できなかったこともあり、当該期

間中には募集人員の見直しは実施しなかった。

《達成度：達成度未計測（計画継続中）》

### 【受験生の増加とレベルアップ】

- ①学習塾系のコンサルティング会社経由での受験生の動向把握、また同社を通じた入試広報の在り方等について多くの進言を得て、その一部については本校の広報・募集入試活動の参考とした。
- ②2021年3月に本校のWEBページについて、視認性向上、スマートフォン対応等を目的に全面リニューアルした。また同時に、機能性向上として、ユーザ側での情報加工・発信が容易となったことを受けて、本校の活動に関する情報発信（広報活動）を積極展開した。
- ③また、高校入試については、2024年度に併願優遇制度を大幅に見直し、応募しやすい入試制度とした。結果、昨年度・一昨年度を上回る受験生が確認できた。

《達成度：概ね目標通りの成果》

## 8. 施設および設備の充実<施設>

### 【設備の維持管理計画】

- ①一時期2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で予定されていた工事が実施できなかったが、その後（2021年度以降）においては、ほぼ計画通りに整備計画を実施することができた。
- ②主な大型案件は下表の通り。

2020年度	道場の空調新設（予定していた、中学棟トイレ改修工事および講堂棟・チャペル棟の空調設備更新はコロナ禍の影響で見送り）
2021年度	中学棟2階トイレ改修工事、チャペル棟の屋根・外壁改修工事、チャペル棟・中学棟・特別教室棟のPACエアコン更新工事
2022年度	中学棟1階トイレ改修工事、講堂棟2階天井耐震補強工事、テニスコート改修工事
2023年度	高校棟西側全階のトイレ改修工事、受変電設備の更新工事
2024年度	管理棟外壁改修工事、高圧ケーブル更新工事、チャペル内の椅子更新および床の改修工事
- ③中期計画にて2026年度頃に予定していた人工芝グラウンドの人工芝張替えについては、人工芝の劣化状況を観察しながら、対応を検討しているところではあるが、現状、良好な状況を維持できているものと判断し、近年中の張替えは実施しない方向である。

《達成度：概ね目標通りの成果》

### 【中学棟・講堂棟・チャペル棟の整備計画】

- ①中学棟の建て替えに関しては、本校内に「中学棟建て替え検討委員会」を2023年度に立ち上げて、他校見学や設計会社とのミーティング等を実施した。
- ②期中に中学棟建て替えの原資となる第2号基本金については、その増強を図るべく、複数回にわたって組入計画を変更した。

《達成度：概ね目標通りの成果》

## 9. 人事体制の強化・整備<人事>

### 【就労関係の整備】

- ①改正労働基準法への対応として、2022年度より本校の教員を対象とした「1年単位の変形労働時間制」と、「有給休暇取得制度」を導入し、運用を開始した。
- ②2022年度に改正労働施策総合推進法（通称、パワハラ法）対応として、ハラスメント防止に関する規則を施行の上、同規則に基づく「ハラスメント対策委員会」を本校内に設置し、運用を開始した。
- ③旧教務システムの保守期限到来を機に、クラウド型校務支援システムを導入し、保護者連絡、各種申請のペーパーレス化を実現した。
- ④教員の業務負担軽減およびICT教育の充実に支援するために、ICT支援員を2023年度より導入した。また、希望する教員を対象として、2023年度より試験的にデジタル採点システムを導入し、順次、対象アカウント数を増加させている。

《達成度：概ね目標通りの成果》

### 【人材育成】

- ①本校事務職員の相互補完体制の強化と担当業務の可視化を目的に、本校の「勤務員ハンドブック」を整備し、必要に応じて改訂した。
- ②2024年度に本校事務職員の一部について担当業務の変更を実施した。
- ③年2回（4月、11月）の教職員研修を通じて、学校を取り巻く環境や課題およびその解決法等、様々な専門家・観点からの情報提供を通じた教職員のレベルアップを図った。
- ④一方で、職員限定の研修については、外部機関による研修を含め、積極活用に至らなかった。
- ⑤職員に対する人事考課制度の有効活用については殆ど実施できなかった。

《達成度：目標未達》

## 10. 財務基盤の強化<財務>

### 【収入の増加と支出の見直し】

- ①2021年度および2024年度において、学納金の値上げを年次進行で実施し、収入の増加を実現した。
- ②寄附金については、応募者数・金額ともに縮減傾向にあり、対象の保護者への働きかけの方法を含めて今後の課題である。
- ③支出削減については、有効な策が見出せない中で、2023年度頃から進行した物価高と最低賃金見直しの影響もあり、逆に諸費用の増加を招いている状況にある。

《達成度：目標未達》

学校法人明治学院 中期計画（2020～2024年度）総括  
＜策定管理者＞ 理事長 山崎 雅男  
＜編集＞ 法人事務室法人企画課  
学長室企画課